

お笑い×図工

十人虹色

「違う」の楽しみかた

第2話

チョコレートプラネット

長田庄平さんとお話する

日文のWebサイト

日文 🔍



※ 本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

心が動く、その先へ。



日本文教出版



長田 庄平

おさだ・しょうへい (チョコレートプラネット)

第2話

お笑い × 図工

大泉 義一

おおいずみ・よしいち

芸人
1980年、京都府生まれ。美術大学でプロダクトデザインを学び、陶芸教室の講師のアルバイトなどを務めたのち上京。2005年、東京NSCに入学し芸人に。2006年、松尾駿とチョコレートプラネットを結成。ネタ作成担当。

自分と違う見方や考え方に
出会ったとき、「違う」を受け止め、
おもしろがる事ができれば、
人生はもっと彩り、豊かになるはず。

異なるフィールドで
活躍する二人の「違う」から、
何色が生まれるでしょう。

早稲田大学教育・総合科学芸術院
教授
1968年、東京都生まれ。公立中学校教諭、東京学芸大学附属小学校教諭、北海道教育大学准教授、横浜国立大学准教授を経て現職。専門は美術教育、デザイン教育、ワークショップ論。小学校図画工作科教科書著者。

「違う」の楽しみかた

十人虹色

お笑い × 図工

第2話 チョコレートプラネット
長田庄平さんとお話する

TT兄弟編

このTと……

このTは……

違う？



図工階段編

この階段と……

この階段は……

どう違う？

毎朝、友だちが登校してくるのを、3階のあの場所からのぞいて待っている時の景色が心に残っていたのでかきました。



3階から見下ろした階段 [54×38cm/鉛筆、色鉛筆、パステル]
教科書『図画工作5・6下』p.26「わたしの大切な風景」から



学校のみみつの階段 [28×39cm/ペン、色鉛筆、パステル]
教科書『図画工作5・6下』p.12「音の絵」から

学校の階段で聞こえる音が好きだったよ。やわらかい音を丸、強い音を三角というようにして、形や色がひびき合うにぎやかなイメージを表したんだ。

第2話のハイライト

長田

大泉

無駄なことなんてない。すべてが今の自分の要素になっている

迷っていい!

特にコント「業者」が好き。小道具もすばらしい

ポテチクリーナーの、あのゆっくり加減がいいんです

スイッチが入らなくても問題はない。いろんな人がいていい

創造力なんて気にせず、いろいろやってみて、自分なりのアプローチを探す

イカの着ぐるみなんて売ってない。だからウレタンを買って、切って貼って……

小道具が先でネタができたり、ネタに合わせて小道具をつくったり。図画工作でも、両方のアプローチがあるんですよ

図画工作の応援団になってくれますか?

誰か一人でも味方がいれば、とても頼もしいんです

誰も武器を持っている

不都合な中にイノベーションがある

何もやっていないことですら無駄じゃないし、武器にもなる。自分で武器にするかどうか

創造力がないという謙虚さも強みになる



対談のすべては、中面へ

見たことないビーサン 1

大泉 聞き手が「会いたい人に会う」というのがこの『十人虹色』のコンセプトでして、私は家族一同、YouTubeの視聴・登録はもちろん、DVDも持っているぐらいチョコレートプラネットが大好きなので、今日はたいへん羨ましがられながらこちらに参りました。

長田 それはうれしい!

大泉 特にコント「業者」が好きで。

長田 あれは最高傑作だと(笑)。

大泉 小道具という面から見ても、すばらしい。

長田 いい仕事してます。

大泉 ネタは長田さんがつくられているんですね。小道具を使うコントは、小道具のアイデアありきでネタができるんですか。それともネタが先?

長田 両方ありますね。例えば「業者」はネタをつくってから、それに合う小道具を考えました。一方で、誰も見たことのない形のの小道具をつくったことが……。



自分がキラリと輝く角度 3

大泉 長田さんは図画工作って好きでしたか。

長田 めっちゃ好きでした。ウチが町工場で、おじいちゃんがいろんなものをつくってたのも見てましたし。

大泉 図画工作って、子どもの好きな教科としては上位にくるんですよ。でも、Adobe社が世界の中高生を対象に行った調査で「創造力」について尋ねたところ、他国に比べて日本では「自分には創造力がない」と回答している子が多かったです。

長田 うーん、それは謙遜なんじゃないですか? 国民性だと思いますね。だって創造力って曖昧なものじゃないですか。それに、創造力がないと思っている日本人のいろんな作品が、世界で評価されていたりもしますよね。俺だって、自分がクリエイティブかと問われたら否定しますよ。でも、だからこそ、どうしたら勝てるか、どういうアプローチなら自分が輝けるかを戦略的に考えて、実行していくというのが楽しいんじゃないかと。

大泉 なるほど。創造力なんて気にせずに、まずはいろいろやってみて、自分なりのアプローチを探すんですね。

長田 いかにか客観的に自分を見られるかも大事ですね。下に見すぎてもダメだし、上に見すぎてもダメ。自分というものを、世間からズレないバランス感覚で捉えて、自分に合った戦い方を探す。

大泉 どうしたら自分を客観的に見られますか。

長田 やっぱり周りの人の意見を聞いて、自分の今いるポジションをしっかりと見ることでしょね。俺もショーレースで勝てなかったり、ひな壇で活躍できなかったりする。そんなときはアプローチ方法を変える。そこからモノマネ……例えばIKKOさんとか和泉元彌さんとか、TT兄弟とかにたどり着いたわけです。

大泉 チョコプラは持ちネタの幅が本当に広いですよな。いろいろやってみて見つける。

長田 でもそこにはね、運というか、偶然の要素も入ってくるんです。絶対に。だからこそおもしろい。自分じゃできないと思っていても、できるときもある。チャンスもある。諦めずに何でもやってみた方がいい。

大泉 運という要素を忘れずに、ですね。

長田 そう。運なのか実力なのか、何がよかったのか。そこを分析していくことも忘れずに。

大泉 「地元」のネタですね?

長田 そうです。あれは奇妙な形のビーチサンダルを先につくって。

大泉 「あの形」(笑)。

長田 はい(笑)。「あの形」を先に思いついて、あれをどうしたらネタにできるかなと考えました。「バンダ」のネタも、ちょっと気持ち悪いバンダ(笑)をつくりたいと思って、ネタを練り上げていきましたね。

大泉 実は図画工作でも、今おっしゃったような両方のアプローチがあるんですよ。

長田 そうなんですか!

大泉 ネタが先なのは、絵や立体や工作に表す。心に思いついたことを、例えばストーリーとして表現していくんです。道具が先なのは、造形遊びに表す。これは材料や場所などが先にあって、それに触れて操作することから思いついたことを表現していくんです。何だか、長田さんのネタづくりと似てますよね。

長田庄平 × 大泉義一

おさだ・しょうへい チョコレートプラネット

おおいずみ・よしいち 早稲田大学 教授



十人虹色 お笑い×図工 第2話

全然、迷っていい! 4

長田 俺だって正直、のらりくらり生きていけばいいんですよ。芸人になって言っても、別に芸人で頂点を取ってやる! って意気込んで始めたわけではなくて、何となく、人生の暇つぶしみたいな(笑)。

大泉 そもそもどうして芸人に?

長田 バイトをしながら将来のことを考えたときに、実家の工場を継いで、そのまま普通に年を取って、結婚して死んでいくのか……と、何となくレールのようなものが見えてしまった。俺はすぐ頭のいい人間でもなければ、ヤンキーでもない。ごくごくフツーに生きてた。だから、そのままそのレールに乗かっていったら、俺の人生って語れるものがないなって。

大泉 そんなことないように見えますけど。語れるものとは。

はじまりはイカの着ぐるみ 2

大泉 自分で小道具をつくろうと思ったのはどうしてですか。

長田 まあ、仕方なく(笑)。最初はお金がなかったからですね。外注したらとんでもない金額になるので。

大泉 なるほど。

長田 かなり初期に、イカと人間のクォーターというネタがあって、イカの着ぐるみ(笑)を使いたいなど。でもイカの着ぐるみなんて売ってない。業者に頼めば当然お金がかかる。そうなる自分でするしかなくて。それでウレタンを買って、切ったり貼ったり。

大泉 さすがに今は外注ですか。

長田 そうですね、今はだいたい外注です。やっぱり忙しいのと、外注の方がクオリティ高いので。とはいえ、ニュアンス的な造形の場合は自分でつくります。

大泉 ニュアンス的というのは?

長田 設定を業者に正確に伝えられない場合ですね。例えば「わらび舞妓ちゃん」(笑)。わらび餅のゆるキャラという設定なんですけど、全部ビニールで中の人が透けて見える。あれは完全に自分でつくりました。

大泉 あの、四角くて半透明のキャラですね!

長田 けっこう試行錯誤してつくりました。業者をお願いしたら、できませんと言われてしまって。

大泉 どのあたりが難しいんでしょう。

長田 わらび餅の半透明な、すりガラスのような感じがなかなか既製品では出せなくて。それで、自分でクリアなビニールに塗装して、透け具合を細かく調節しました。そこがおもしろさの鍵になるので。

大泉 だからこそ、こだわるんですね。

長田 「業者」のポテチクリーナー(笑)も、ポテトチップスの袋がこう、ゆっくりとスライドしていく、そのスピードをめちゃくちゃ調整しました。

大泉 あのゆっくり加減がいいんですね。素早くシュツと切るんじゃダメで。

長田 速すぎてもダメだし、ゆっくりすぎてもダメ。少しずつギア比を変えながら(笑)。

大泉 試行錯誤をされたんですね。

長田 そう。一番おもしろいスピードを探って。まあ、そこは芸人としての感覚ですね。



松尾さんは味方ですか? 5

長田 無駄なことなんてないと思うんです。今まで生きてきた中で、すべてが今の自分の要素になっている。何もやっていないことですら無駄じゃない。それはそれで武器になる。武器にするかどうかですよな。自分で使うかどうか。

大泉 誰しも武器を持つてる。

長田 絶対持つてる。勉強できないならできないことを武器にして、どう戦っていくかを考える。勉強ができないからこそ、できるようになるシステムを考えつくかもしれない。それはたぶん、勉強ができる人には思いつかない。

大泉 確かに。

長田 日本の教育は型にはめる教育だっていうじゃないですか。でも俺は悪くないと思うんですよ。型にはめられているから、パンって出てくるものもある。不都合な中にイノベーションがある。

大泉 不都合な中にイノベーション。創造力がないという謙虚さも、もしかしたら日本の強みになるんですね。

長田 そう、強みになる。武器になる。うまく戦えば評価にもつながる。認められるってうれしいことなので。

大泉 人は思ったよりも人を褒めたり、認めたりしないそうですね。

長田 俺も売れない時期はあったんですけど、やっぱり先輩や同期の中に「おもしろい」って言ってくれる人がいたから頑張れた。誰か1人でも認めてくれる人がいれば、それが糧になる。誰か一人でも味方がいれば、とても頼もしいんです。

大泉 相手の松尾さんは味方でしょうか。

長田 あいつは味方なのかよくわかんない(笑)。パートナーなので。でもまあ、味方っちゃあ味方ですよな。

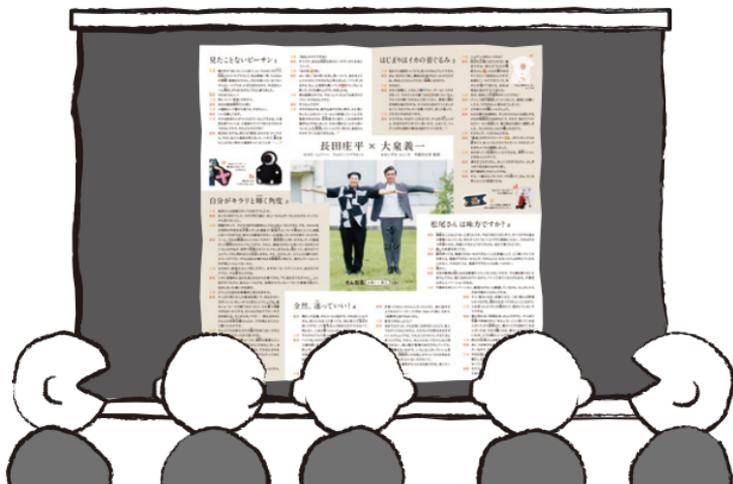
大泉 今日お話しできて、本当によかったです。最後にお聞きしますが、長田さんは、図画工作の応援団になってくれますか?

長田 もちろんです! 応援してますよ。

十人虹色の使いかた

教室の後ろに貼って、
壁新聞に！

高学年の
キャリア教育に！



吉本興業の東京社屋にて。T・T兄弟のポーズという
リクエストにも快く応じてくださったお二人。感謝です！

Design / Art direction : 10inc. Portrait : Munemasa Takahashi

じゅうにん にじいろ

十人虹色 第2話

日文教授用資料 [図画工作]
令和7年(2025年)9月17日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL : 06-6692-1261
FAX : 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33774

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690